

プログラム

第一部

16のコーラル集より J.S.バッハ編纂

- ・作者不詳 「御子は 今日ぞ 我らに生まれ給えり」
- ・作者不詳 「人は皆死すべき定め」
- ・ノイマルク 「ただ愛する神の摂理に身を委ねるものは」
- ・ゲシウス 「汝が行くその道を神に委ねよ」
- ・作者不詳 「いざ来ませ 異邦人の救い主よ」
- ・パッヘルベル 「神の御業を全うし」

二つのソナタ D.シュペール

塔の音楽

J. シュテール/スローカートロンボーン四重奏団編

Laudate Dominum H.ハスラー/B.ウェッツ編

トロンボーン四重奏曲集より R.ミュラー編

- I. 君知るや、レモンの花咲く国 W. バウムガルトナー
- II. 朝の祈り C. ツェルナー
- III. 行進曲 V. ベッカー

第二部

Inveni David A.フルクナー

Os Justi A.フルクナー

4本のトロンボーンのための組曲作品 82 F. ペーテルス

「眠りの森の美女」よりワルツ P.チャイコフスキー/佐々木亮輔編

メンバー紹介

【Tenor Trombone】

山崎 富士夫
遠藤 和之
赤羽 史穂
松本 京子
小川 聡
知久 望
吉本 純子
今井 亮介
八野 悠里
小竹 佳奈子
反橋 拓朗
吉村 千花

【Bass Trombone】

松木 伸行
加藤 昭宏

GAKUSHUIN TROMBONE CLUB

学習院トロンボーンクラブ

第25回定期演奏会

2011年2月26日(土)

開場 18:40 / 開演 19:00

ルーテル市ヶ谷センター

音楽ホール



ごあいさつ

本日は、学習院トロンボーンクラブ(GTC)第25回定期演奏会にお越しいただきましてありがとうございます。今回も私たちは精一杯、トロンボーンを通して、音楽に対する熱意をお伝えしていきたいと思っております。最後までごゆっくりお楽しみください。

学習院トロンボーンクラブ メンバー一同

顧問紹介 今井 順夫

GTC メンバー共通の恩師で、1943年生まれ。東京芸術大学を卒業後、大学オーケストラの金管トレーナーや吹奏楽団の指揮者として活躍する傍ら、日本トロンボーン協会理事長、志賀高原音楽祭実行委員会理事長を務め、精力的に活動を展開。GTC 結成以来ご指導いただいております。

曲目解説

16のコーラル集より (J.S.バッハ編纂)

- ・作者不詳 「御子は 今日ぞ 我らに生まれ給えり」
- ・作者不詳 「人は皆死すべき定め」
- ・ノイマルク 「ただ愛する神の摂理に身を委ねるものは」
- ・ゲシウス 「汝が行くその道を神に委ねよ」
- ・作者不詳 「いざ来ませ 異邦人の救い主よ」
- ・バッハヘルベル 「神の御業を全うし」

コーラルはもともとルター派の教会ミサで歌われる賛美歌でした。聖書の言葉を一般大衆に対して広めることを目的として作られました。

私たちは毎年このコーラルをプログラムの最初に演奏しており、当団体の伝統になっております。

J.S.バッハはコーラルを数多く作り上げています。

彼のコーラルの特色は平易な旋律の下で非常に精力的に動き回る内声部。

全体を支えながら大きなうねりが特徴の低音部が美しさの中に荘厳さを伴う音楽を形成しています。(F.Y)

八野、反橋、知久、加藤、吉本、小川、今井(舞台)
松本、小竹、松本、山崎、赤羽、吉村、遠藤(客席)

二つのソナタ (D.シュペール)

シュペール(1636-1707)はバロック時代に活躍したドイツの作曲家(作家でもあり、政治的な活動により、投獄されたこともあったらしい)であり、この時代には珍しく、金管楽器を用いた教会用のソナタを数多く残しています。

今回、演奏する二つのソナタはトロンボーンのために作られ、通奏低音(今回はトロンボーン)の上で、2本のトロンボーンが旋律を奏でます。

この時代には特徴的な(やや沈鬱な)情緒あるメロディーが印象的なとても美しい曲です。(T.S)

反橋、今井、八野

塔の音楽

(J.シュテール / スローカートロンボーン四重奏団編)

16世紀の終わりから18世紀初めのドイツでは、教会や町役場の塔の上から、時刻を知らせるための音楽が演奏されるという素敵な風習があったそうです。演奏されていた曲は、主に管楽器によるコーラルで、今回演奏するこの曲も明るく華やかな和音が特徴的です。

塔の上から街いっぱい響き渡るイメージで演奏したいと思います。(J.Y)

吉本、赤羽、松本、加藤

Laudate Dominum (H.ハスラー / B.ウエツ編)

“Laudate Dominum(ラウダテ ドミヌム)”とはラテン語で“主を誉め讃えよ”の意で、旧約聖書におさめられた117番目の詩編を指します。この詩を賛美歌として作曲したのが16世紀に活躍したドイツの作曲家兼オルガニストのハスラーです。

編成は八重奏ですが、2つの四重奏の掛け合いで進行し、曲の終盤でようやく8人で演奏する特徴的な曲となっています。

四重奏間の掛け合いと、トロンボーンならではの響きをお楽しみ下さい。(Y.Y)

八野、小川、松本、遠藤

小竹、知久、吉村、反橋

トロンボーン四重奏曲集より (R.ミューラー編)

- | | |
|------------------|-------------|
| I. 君知るや、レモンの花咲く国 | W. バウムガルトナー |
| II. 朝の祈り | C. ツェルナー |
| III. 行進曲 | V. ベッカー |

この曲集には61曲のトロンボーン四重奏曲が収められており、私達の間では単に「民謡集」の名称で長年に渡り大変親しんで参りました。内容は、ヨーロッパ各国の民謡、歌曲、合唱曲(主に男声合唱)、マーチ、ワルツ、コーラル、オペラのアリアなど多種多様な楽曲が含まれております。

私達の演奏会では毎回取り上げておりますが、本日は歌曲、合唱曲、行進曲と雰囲気異なる3曲を演奏致します。中でも3曲目のベッカーの行進曲は、演奏する機会が多く、私達にとっても大変思い入れの強い作品です。(F.Y)

今井、吉本、山崎、小川、松本、加藤、反橋、赤羽

Inveni David 「私は、~~誰~~ダヴィデを選び」 (A.ブルックナー)

ヨーゼフ・アントン・ブルックナー(1824-1896)は、オーストリアの作曲家・オルガン奏者であり、特徴的な和声の重厚で長大な交響曲を作ったことでも有名です。

ブルックナーは他にも「モテット」と呼ばれる、主にラテン語の歌詞を持つ宗教合唱曲を数多く残しており、今回演奏する「Inveni David」は、そのひとつであり、原曲は(なんと!)トロンボーン4本と混声4部合唱で演奏されます。

厳かなユニゾン、神秘的な(ブルックナーならではの)和声の移り変わりなど、教会のオルガニストであったブルックナーの生身の感性が感じられる曲です。(T.S)

反橋、八野、小川、今井、
吉本、小竹、吉村、遠藤

Os Justi 「正しき者の唇は知恵を語る」 (A.ブルックナー)

敬虔なカトリック信者でもあった、ブルックナーはこのような無伴奏のモテット(合唱曲)を数多く作曲しております。

歌詞の内容は、信仰に基づく法律は神を褒め称える人々の心の中に存在し、その心正しき人によってのみ神の叡智が語られることを歌っています。

本日はトロンボーン8本の演奏で歌詞はございませんが、教会のミサの荘厳な雰囲気を目指して演奏したいと思います。(F.Y)

山崎、小川、松本、知久、赤羽、吉本、八野、松本

4本のトロンボーンのための組曲作品 82 (F.ペーテルス)

ペーテルスは20世紀ベルギーにて活躍したオルガニスト、作曲家です。今回演奏するこの組曲はトロンボーンアンサンブルの中でも特に人気の曲であり、数多くのトロンボーン奏者が演奏しています。

バスから始まりテナー三本が呼応する力強いファンファーレの「Entrata(導入曲)」、一貫して流れ続ける美しい旋律の「Lied(歌)」、古典音楽のようなステップが印象的な「Dans(踊り)」、軽やかなフレーズが奏者を渡り幕を引く「Final(終曲)」。色彩豊かな組曲をお楽しみ下さい。(K.K)

小竹、遠藤、今井、加藤

「踊りの森の美女」よりワルツ

(P.チャイコフスキー / 佐々木亮精編)

原曲は、シャルル・ペローのおとぎ話『眠れる森の美女』を題材としてチャイコフスキーが作曲した、著名なバレエ音楽です。

その中でもワルツは特に有名で、ディズニー映画の劇中歌「いつか夢で」として耳にしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

劇中では主人公であるオーロラ姫16才の誕生日を、多くの村人たちが祝福する踊りの場面で使用されており、優雅で壮麗な曲調です。

実際はオーケストラで演奏される曲を、トロンボーン8本で演奏するという大胆な(無謀な?)挑戦をご堪能下さい。(Y.Y)

八野、吉本、赤羽、小竹、今井、反橋、遠藤、加藤